

IFA レフェリートレセン 2023

<日 程>2023年7月22日(土)

<場 所>流通経済大学龍ヶ崎フィールド/たつのご公園

<参加者>14名(ユース審判員1名)

<時 間>事前研修 15:45~17:00

観戦研修 18:00~20:30

<担 当>岡部拓人 塚越由貴 犬飼一郎



【事前研修】

「判定のグラデーション」

- ・足裏でのタックル 不用意・無謀・過剰な力
- ・ボールを手や腕で扱う
- ・ボールにチャレンジするとは

→正しい判定を下すために、

「どこがどこにコンタクト、インテンシティ」をキーワード用いて整理しました。

→反則が起きやすい状況や選手心理を想定して危機意識と反則を待ち受ける心の準備を。

→主審と副審が見るべき点を明確にすることで重要な判定を下すときにより精度が高くなる。

→見えなかったことは取り繕うことなく素直に伝えてほしい。

→競技規則の改正の背景を理解して、選手の安全を優先した競技規則の適用を意識してほしい。

【試合観戦/分析】

対象試合:関東大学サッカーリーグ1部 流通経済大学ー拓殖大学

関東トップカテゴリーの試合を観戦して求められる能力は何かを共有する。

事前に行った判定のグラデーションを意識して実際の試合で「自分だったら～」と想像して観戦。



試合から

- ・実際に試合で起きた事象から、事前に整理した考慮事項と比較することができました。

試合で突発的に起こる事象に対して、予測から意識を持って見たか否かによって情報量が違ってきて最終的に判定の精度が変わってくることを再確認しました。

- ・チームの中心選手や戦術などを理解することで見るべき焦点が絞られ、精度も高まっていく。
- ・副審の立場から、ゲームスピードが速くなってくることで起こるミスの事例共有がありました。
- ・関東インストラクターから上級を目指すためにはどんな能力が求められているのかを伝達していただきました。単純に事象を見るための動きやポジションだけではなく、「重要な判定を逃さない！試合をリードする！」という強い向上心を持つことで動き、振る舞いも変わり信頼につながっていく。多くの指導実績から県内審判員の背中を押すコメントもありました。

チーム関係者から

- ・判定のみをするのではなく選手とコミュニケーションをとって試合を導いてほしい。
- ・レベルが高い大学サッカーとの関りを強めることで相乗効果がうまれるので普段のトレーニングマッチなどでも担当して頂き、チーム関係者や選手との意見交換を行う場としてほしい。
- ・審判員も指導者同様に育成年代のサッカー選手の将来に強く関わっている。

それぞれの大会の意味や競技者の置かれている状況から、判定の正誤以外でも競技者やチームとの関わり方を考えさせられるコメントもあり、改めて審判員の任務の大切さを感じました。



昨年から県内で開催されるトップカテゴリーの公式戦を用いた観戦研修をおこなっています。勝利を目指す両チームの真剣勝負から審判に求められる能力を共有し、試合後にチーム側からリアリティのあるコメントなど非常に参考になるものでした。同時に我々が参加審判員に伝達している内容についても間違いがないことを確認することが出来ました。

関東インストラクターからもコメントをいただき上級を目指すうえでどんなレフェリーが求められているのか整理できたと思います。

審判と技術の意見交換、大学との連携などサッカーに関わる方と同じ試合を共有しながらの意見交換を頻繁に行えるようにサポートしていきたいと考えています。今回のトレセン活動にご理解ご協力頂いた関東大学リーグ、両チームの皆様には感謝申し上げます。

レフェリートレセンの目的

茨城県内の1級審判員が中心となり、県内審判員への技術指導・素質向上・情報伝達を中心とした活動。県内の審判員には国際経験を持つ審判員など日本のトップリーグを担当する審判員が在籍しており、その経験を伝えながら底辺拡大と次世代のトップレフェリーの育成強化を図っている。